

たまねぎレポート【第422号】



令和4年12月27日

社 内 報

阪南青果株式会社

11月の天候は、気温は全国的にかなり高かった。降水量は沖縄・奄美でかなり多かった。日照時間は北・東・西日本の日本海側でかなり多かった。12月は月前半は平年より温暖な日が多かったが、後半特にクリスマス前後は寒波襲来で日本海側は大雪に見舞われた。気象庁の1月～3月の3か月予報では、平均気温は、沖縄・奄美で平年並みまたは低い確率ともに40%。降水量は、東日本の太平洋側で平年並みまたは少ない確率ともに40%。西日本の太平洋側と沖縄・奄美で少ない確率50%。日本海側の降雪量は、平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

1月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ雪または雨の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

3月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり平年と同様に晴れの日が多い。西日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

野菜の市場概況

建値市場の11月の野菜の販売量は、217,382トン前年比95%(前月比90%)、平均単価はkg ¥ 216前年比106%(前月比94%)。市場別にも大きなバラツキがなく、総じては入荷減の単価高となっている。市場別の販売量の前年比と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比97%、平均単価はkg ¥ 167前年比102%。東京市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg ¥ 229前年比107%。名古屋市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg ¥ 209前年比104%。大阪本場の販売量は前年比98%、平均単価はkg ¥ 226前年比107%。福岡市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥ 174前年比100%となっている。

建値市場の11月の玉葱の販売量は26,190トンで前年比105%、(前月比98%)、平均単価はkg ¥ 100前年比67%(前月比100%)。北海物の入荷は前年比2桁増となった市場が多かったが、府県物・輸入物が減少した。平均

単価は前年比67%の大幅安、前月比100%で保合を維持した。市場別では、札幌市場の販売量は4,324トン前年比92%、平均単価はkg¥92前年比79%。東京市場の販売量は8,921トン前年比109%、平均単価はkg¥103前年比61%。名古屋市場の販売量は6,789トン前年比100%、平均単価はkg¥96前年比68%。大阪本場の販売量は3,893トン前年比118%、平均単価はkg¥109前年比70%。福岡市場の販売量は2,263トン前年比113%、平均単価はkg¥104前年比65%となっている。

日本農業新聞社の集計値では、主要7地区における卸の代表7社が販売した、11月の主要野菜14品目の販売量と平均単価は次のとおりである。総販売量は100,033トン前年比4%減、平年(過去5年平均値)比5%減。平均単価はkg¥128前年比1%高、平年比2%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ジャガイモが10%増、ホウレンソウが6%増、ナスが5%増、ダイコンが4%増など5品目。販売量が前年比減の品目はハクサイが13%減、キュウリが12%減、レタスが8%減、キャベツが5%減など8品目。前年比高となった品目はハクサイがkg¥62で35%高、ダイコンがkg¥69で30%高、レタスがkg¥146で27%高、ピーマンがkg¥397で26%高など10品目。前年比安の品目は、ジャガイモがkg¥88で前年比46%安、タマネギがkg¥84で31%安、ナスがkg¥344で10%安、ホウレンソウがkg¥412で1%安など4品目となっている。玉葱は販売量1%減、単価は31%安となっている。

東京都中央卸売市場の11月の野菜の入荷量は、115,515トン前年比94%(前月比91%)。平均単価はkg¥229前年比107%(前月比93%)で、旬別では上旬が¥249、中旬が¥228、下旬が¥209で前月同様のジリ貧市況となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、バレイショが前年比108%、タマネギが109%の2品目。入荷が前年比減の品目は、ナマシイタケが

前年比81%、ハクサイが84%、サトイモが85%など13品目。価格が前年比高の品目は、ハクサイがkg¥63で前年比149%、;レタスがkg¥194で140%、ダイコンがkg¥74で135%などの3品目。前年比安の品目は、バレイシヨがkg¥110で前年比57%、タマネギがkg¥103で61%、ナスがkg¥343で前年比86%など3品目となっている。

東京都中央卸売市場の11月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	115,515	93.9	91.2	229	106.7	93.1
た ま ね ぎ	8,921	109.4	94.3	103	60.8	99.0
キ ャ ベ ツ	14,227	92.0	82.3	81	119.9	108.0
は く さ い	13,295	84.2	88.0	63	149.1	80.0
だ い こ ん	10,861	93.6	94.5	74	134.7	107.3
に ん じ ん	7,408	93.4	98.7	121	118.2	70.0
ば れ い し ょ	6,448	108.3	88.9	110	56.6	100.9
レ タ ス	6,546	93.3	81.3	194	139.8	96.0
ト マ ト	4,245	94.8	84.0	518	101.2	97.4
ね ぎ	5,139	95.3	95.5	268	117.8	74.7
か ぼ ち ゃ	1,986	81.3	62.3	198	132.6	150.0
な が い も	613	87.6	82.4	328	108.3	109.3
れ ん こ ん	1,076	117.2	98.8	287	69.1	95.0
に ん に く	197	91.4	107.7	876	80.7	95.0

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の11月の玉葱の入荷販売量は8,921トン前年比109%(前月比94%)。主力は北海物で入荷量は8,725トン前年比116%、占有率は98%で前年比6ポイントアップ。中國物は146トン前年比28%、占有率2%前年比5ポイントダウン。兵庫物は24トン前年比48%。総平均単価はkg ¥103前年比61%(前月比99%)。産地別単価は、北海物はkg ¥102前年比59%、中國物はkg ¥146前年比116%、兵庫物はkg ¥222前年比115%となっている。

12月に入って、年末需要が期待されたものの、荷動きは変わらず横這い状態が続いた。北海物のお荷は順調で、いづれの卸も産地の希望価格を維持する販売に努め、在庫を抱え込む状態となった。月後半には寒波到来の予報で、輸送の乱れが予想されたが、十分な在庫があり、相場に変化はなかった。買参人の年末年始用の注文も予定通りで、直送品のL大で多少の不足が生じたが、転送物で間に合った。年明けも、年末同様の市況が続き、新物に関心が集まる下旬頃から軟調に転じると見ている。佐賀物の冬採りは、本日販売で終了したが、クリスマスが終わると需要がなくなり、投げ売り状態となった。

12月1日～20日の玉葱の販売量は6,387トン前年比110%、北海物の占有率は97%。平均単価はkg ¥108前年比59%。産地別では、北海物の販売量は6,198トン前年比116%、平均単価はkg ¥105前年比56%。中國物は103トン前年比28%、平均単価はkg ¥139前年比115%。佐賀物は55トン前年比122%、平均単価はkg ¥312前年比94%となっている。

名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の11月の玉葱販売量は6,789トン前年比100% (前月比101%)で前年比、前月比とも数量的には殆ど変化はない。メインは北海物だが、前月に続き北海物オンリー販売であった。北海物は6,729トン前年比101%、占有率は99%で前年と同じ。中国物は39トン前年比49%。愛知物は10トン。総平均単価はkg ¥96前年比68% (前月比100%)。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥95前年比66%。中国物はkg ¥140前年比128%。愛知物はkg ¥108前年比89%となっている。

12月に入り、例年は年末商材の搬入搬出が活発化するが、今年は月半ばになっても、例年に比べると静かであった。玉葱の動きにも変化がなく、期待は後半にずれ込んだ。後半には寒波による輸送の乱れで、北海物の入荷が不安定になったが、在庫があり心配はなかった。産地の主力JAからは、2L~Mサイズの平均値で¥2,100確保の要請があったものの、販売環境は厳しく受け入れられる状態ではなかった。昨今は、寒波に依る鉄道輸送の乱れで入荷は減少傾向にあり、荷動きはまずまずである。近年では、年末年始用に大量買いをする中卸が少なくなっている。今年などは量販店で年末年始の特売をしないで、数量は品揃え程度に抑え高値販売をする店が多くなっている。現在、北海物の在庫をそこそこ抱えているので、年明け市況の好転を期待している。初売りから販売予定の静岡の新物は、このところの寒波で生育が停滞し、入荷増となるのは1月末と見ている。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の11月の玉葱の販売量は3,893トン前年比118% (前月比102%)で前年比、前月比とも増となっている。例年、主要銘柄となる兵庫の淡路島たまねぎの冷蔵物は在庫減で大幅減となったが、主力の北

海物は大幅増となった。産地別の販売量は、北海物が3,482トン前年比135%、占有率89%で前年比11ポイントアップ。兵庫物は401トン前年比58%、占有率10%で前年比11ポイントダウン。総平均単価はkg¥109前年比70%（前月比98%）。産地別の平均単価は、北海物はkg¥97で前年比66%、品薄の兵庫物はkg¥217前年比113%となっている。

12月に入って、北海物の入荷は順調だったが、L大以外は荷動きが鈍く、売れ残りが多くなり、在庫が増加傾向となった。兵庫の冷蔵物は、高値悩みで弱含みの相場が続いた。一部に品質劣化品も発生し下値販売が多くなった。月後半には、高値のL・10kg・¥2,000の維持が困難になった。今年も押し迫り明日は止め市となったが、静かな閉幕となりそうだ。数日来の寒波に依る輸送の乱れで、入荷は不安定となったものの、荷動きに変化はなく、相場は保合で終わりそうだ。年始の販売分は此の先トレラー便で着荷する予定で、数量確保は出来ている。量販店など大口需要家には年明けから値上げを打診しているが、販売環境は厳しく、商談は進んでいない。

12月1日～20日の玉葱の販売量は2,906トン前年比123%、平均単価はkg¥109前年比66%。産地別では、北海物は2,580トン前年比134%、平均単価はkg¥97前年比63%。兵庫物は313トン前年比77%、平均単価はkg¥203前年比91%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の11月の玉葱販売量は、2,263トン前年比113%（前月比87%）で、前年比増、前月比減となっている。主力は北海物で、販売量は2,122トン前年比124%、占有率95%前年比10ポイントアップ。中国物は114トン前年比45%、占有率5%前年比8ポイントダウン、兵庫物は18トン前年比93%、占有率1%。総平均単価はkg¥104前年比65%（前月比105%）

で前年比安、前月比高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥ 101前年比60%。中國物はkg ¥ 118前年比122%。兵庫物はkg ¥ 263前年比107%となっている。

12月に入ってからも、買参人の当用買いが続き、荷動きが鈍く、特に2LとLの在庫が増加した。月半ば過ぎから、年末需要の関係もあり、漸く荷動きが回復傾向になり、下値販売が少なくなった。寒波の到来が予報され、輸送の乱れで着荷の減少が予想されたが、それなりの在庫があり、品不足になることはなく越年できると思った。いよいよ年末が押し迫った今日この頃だが、期待したほどの需要はなく、駆けこみ需要もなく終わりそうだ。年末も荷動きが鈍く厳しい局面もあったが、値崩れをせずに販売出来たと思っている。年明けの入荷は月半ばになるが、十分な在庫があり心配をしていない。初荷相場から堅調に転じれば良いと願っている。

12月1日～20日の玉葱販売量は1,349トン前年比108%、平均単価はkg ¥ 110前年比63%、入荷は前年比8%増、価格は前年比37%安となっている。

12月26日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量57トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥ 2,000～1,500、L大 ¥ 2,000～1,600、L ¥ 1,900～1,400、
M ¥ 1,700～1,300。

【太田市場】 販売量237トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥ 2,000～1,900、L大 ¥ 2,200～2,000、L ¥ 2,000～1,900、
M ¥ 2,000～1,600。

佐 賀 5kgDB(冬採り)2L ¥ 1,000～ L ¥ 1,200～ ¥ 1,000～
S ¥ 800～

【名古屋北部市場】 販売量80トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,100~2,000、L大 ¥2,100~2,000、L ¥2,000~1,900、
M ¥2,000~1,900。

【大阪本場】 販売量373トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000~1,900、L大 ¥2,100~1,900、L ¥1,900~1,800、
M ¥1,700~1,600。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,800~1,700、L ¥1,900~1,800、M ¥1,800~1,700。

【福岡市場】 販売量214トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200~2,000、L大 ¥2,200~2,000、L ¥2,200~2,000、
M ¥2,000~1,900。

供給(産地)の動き

北海道産地では、倉入れが終了し越年在庫量が推測される時期となった。感触的には、年内の出荷進捗率は計画以上に進んだ感が強い。豊作だったにも拘わらず、出荷も市況も順調に推移したとの思いが台頭している。秋冬期の輸入は、コロナ禍と円安の影響で大幅減となっていることや、輸出も当初計画を上回っている等で、供給過剰感が薄れている。加工向けの翌春需要分の消費地貯蔵(冷蔵保管)を増やしたことも、産地の在庫減の感触を強めている。府県の新物は、早生種の増反と出荷の前進が予想されるが、数量的に出回るのは2月以降である。静岡の極早生は、例年通り年明けの初市から出荷が始まる。続く長崎、愛知物も一部で1月に走り物の少量出荷が予想される。

北海道産地

数日來の寒波で輸送が停滞し、月後半の出荷は計画を下回ったものの、年内出荷は順調で進捗率は計画を上回りそうである。当初は豊作貧乏と言われ

る市況安が心配されたが、ホクレンの指示価格が効を奏し、市況は終始実勢価格を上回った。品質的には前年に比べると病害に依る商品化率の低下が散見され、年明けには劣化が進行し、一部で出荷に焦りが見受けられる。年明けの出回り量は当初計画を下回る予想である。

府県産地

年明け早々から出荷が始まる静岡物の極早生の生育は、圃場格差はあるものの順調に推移している。産地を一巡すると、生育にかなりの圃場格差は見られるが、月別出荷に対応した栽培によるもので、1月出荷と2月出荷には生育に早い遅いの差があるのは当然である。JAの「はるたま」の出荷計画は、栽培面積167ha、出荷数量7,244トンでいずれも前年並みとなっている。

佐賀産地では、既に晩生の定植も終了している。例年、晩生の定植終了は年明けになるのだが、年内終了は稀である。亦、晩生種も苗立ちが良好だったことで、初期生育は順調である。極早生の生育は、定植時の天候と土壌の関係で、かなりの圃場格差はあるものの、定植後の寒波と降雨の影響で、総じてやや遅れ気味である。中心地区の白石管内での作付けは、総体的にやや増反で、早生増反、中晩生減反の構図となっている。此処数年来、生産者の収益性は早生が有利であったことに加え、前期の春の異常高が栽培意欲を強くしている。特に多収穫種の「レクスター」が増えている。

長崎の南高地区では、早や出し出荷に挑戦する生産者があり、一部年明けからの出荷を計画している。総掘り出荷が始まるのは2月半ばからで、極早生の作付は前年並みかやや増反と見ている。

兵庫、主産地淡路島では、冷蔵物の出荷は12月に入り、期待した年末需要が振るわず、市況軟化で様子見出荷となった。22日現在の在庫は、20kg251,683ケースで前年比97%。一昨年に次ぐ少量である。淡路物以外の国内

産の在庫は287,000ケースで前年比143%となっている。北海物の加工向けの前倒し出荷が影響している。輸入物は12,740ケースで前年比41%。

新物の生育は順調でやや前進化している。昨シーズンの春高市況を反映して、早生種の「レクスター」が増反されている。

輸入の動き

11月の輸入量は速報値で、19,806トン前年比71%。中国がコロナ禍の影響で人手不足が深刻化し前年比大幅減となった。国別では、主力の中国が19,806トン前年比75%。オランダが181トン前年はなし、米国が155トン前年比8%となっている。

中国、現在の供給地は甘粛省だが、コロナ対策で人の移動が制限され、人手不足が深刻化し、物価が高騰していると聞く。剥き玉葱も今までにない高値となっている。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・剥き玉\$14.40。に上昇している。

輸出の動き

年内の輸出は北海物で17,745トン(内訳、台湾向け15,417トン、韓国向け2,328トン)となっている。

1月の市況見通し

12月の市況は、卸各社はホクレン主導の指示価格を念頭に販売したことで、市況は豊作年にも拘わらず、市場相場は実勢価格を上回った。輸入物はコロナ禍の影響で国際的な価格が高騰し、輸入量が減少した。他方、円安で台湾・韓国への北海物の輸出が、当初計画を上回ったことなどで、年明けの需給は均衡する予想が強まっている。北海物の市況は12月なみの保合相場か、ホクレンの出荷姿勢次第では多少の上昇相場になる可能性もある。静岡の新物は

L¥3,000～2,500を予想している。(笹野敏和記)